

## 大学の世界展開力強化事業（平成28年度採択）事後評価結果

大 学 名	東京外国語大学
整理番号	B1
事 業 名	日本発信力強化に貢献するミャンマー・ラオス・カンボジア知日人材養成プログラム

### ◇大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

総括評価  <span style="font-size: 2em; font-weight: bold;">A</span>	事業計画どおりの成果をあげており、事業目的は実現された。
<p>コメント</p> <p>本事業は、ミャンマー、ラオス、カンボジアのトップ大学との双方向の教育交流を通して、当該国の日本研究・日本語教育における中核人材、また、3ヶ国の言語・文化・社会に精通した3ヶ国と日本の架け橋となる人材の育成を目標としたものである。短・長期、大学院の多層的な教育交流プログラムの実施による包括的な事業を展開することができた。</p> <p>各交流プログラムとも、共同学習、社会・文化体験、企業訪問等が組み込まれた充実した内容となっており、2016年度から2019年度の実渡航による交流学生数は、全てのプログラムで目標をほぼ達成あるいは上回ることできている。学生交流に合わせて教職員を派遣・招へいすることにより、連携先との関係を強化し、事業の推進に欠かせない協議・調整体制を構築することができた。留学支援共同利用センターの設置や独自の危機管理システム「ただいま海外留学中」の活用を通して、学生の情報を一元管理し、日常的な連絡業務の効率化・円滑化に努め、事業の目的に沿った連携校・機関の選定や、大学間の信頼関係を基盤とした教育の質保証にも取り組み、評価に値する国際教育交流実績と学生支援の充実をもって本事業を展開してきた。コロナ禍における対応としての「次世代型海外留学を目指すスタートアップ・プログラム」や「特定非常勤講師制度」の整備を通して、事業を継続するための施策をいち早く実施し、成果を挙げた。広報に関しては、本事業のウェブページ立ち上げ、複数の言語に対応したパンフレットの作成、日本留学フェアへの参加、卒業生、留学生、招へい教員への働きかけといった多様な活動が展開できた。</p> <p>一方で、事業の達成目標に応じた各プログラムのアウトカムベースの成果は明確に示されておらず、短期研修の学習効果測定や、オンライン教育交流の質保証、また、短期プログラム（派遣・受入）の単位付与対象活動とそれを補完する大学院生による日本語講座やタンデム学習活動等との区別や質保証についてより一層の可視化が望まれる。また、本事業で実施した各プログラムの達成目的に沿ったキャリア形成支援の成果、東京外国語大学より発行される修了証や認定証（TUFS ディプロマ・サブリメント）の価値については、更なる検証が必要である。</p> <p>最後に、大学の世界展開力強化事業による補助期間は終了したが、引き続き質保証を伴う発展的な事業展開の実施によって、我が国の大学教育を牽引し、更なるグローバル展開力の強化に寄与されることに期待する。</p>	